



千葉大学
CHIBA UNIVERSITY



令和5年5月11日
墨田区
国立大学法人千葉大学

墨田サテライトキャンパス産の「はちみつ」 「-両国-江戸NOREN」内の両国観光案内所で販売中！

千葉大学墨田サテライトキャンパスでは都市養蜂に関する研究を行っており、研究の副産物として得られたはちみつを商品化しています。このたび、墨田区出身の浮世絵師、葛飾北斎の作品（すみだ北斎美術館蔵）を新たに活用したパッケージへと全面リニューアルを行い、「-両国-江戸NOREN」内にある両国観光案内所などで令和5年5月1日から販売を開始しています。



販売概要

千葉大学墨田サテライトキャンパス産はちみつ 『4月』 『5月』 『6月』 『7月』
販売開始日：令和5年5月1日（月）
販売価格：1,800円（税込）
販売店舗：両国観光案内所（墨田区横綱1-3-20 -両国-江戸NOREN 1階）
* 営業時間：10時半～19時 休館日：1月1日、2日

千葉大学墨田サテライトキャンパスでの都市養蜂研究

墨田区と千葉大学は平成29年3月に包括的連携に関する協定書を締結し、令和3年4月には、墨田区に千葉大学墨田サテライトキャンパスが開設されました。同キャンパスは、同大学のデザイン・リサーチ・インスティテュート（略称dri）の活動拠点となり、分野横断的デザイン教育・研究を展開しています。

同キャンパスでの都市養蜂研究は令和4年3月から開始しました。千葉大学では西千葉・亥鼻・柏の葉の各キャンパスで養蜂研究を既に行っていたが、東京都内における養蜂研究は千葉大学初の試みです。具体的には、dri（三輪正幸助教）が主体となって、キャンパス屋上でセイヨウミツバチを飼育して、はちみつの新たな評価手法の開発を行っているほか、ミツバチを通じた緑化推進活動やはちみつを題材とした食育活動にも取り組んでいます。研究の副産物として得られたはちみつ（令和4年は約200kg）は墨田区のふるさと納税の返礼品として採用されています。

千葉大学墨田サテライトキャンパス産はちみつの特徴

ミツバチは半径約3kmを行動範囲としているため、墨田キャンパスで生まれたはちみつは、墨田区内全域から採蜜してできた、純粋な「墨田区産」の食品です。特徴的なのは、4～7月まで月ごとにはちみつを生産していることです。研究の一環として、はちみつに含まれる花粉やミツバチが巣箱に持ち帰る花粉団子をDNA分析し、どんな蜜源からはちみつができていたか調査しているため、味や色の月ごとの違いを、正確な蜜源植物の名前を意識しながら味わうことができます。

今後の展開

今回の販売開始をきっかけに、区内百貨店等での販売に向けて現在準備を進めています。さらに、千葉大学の都市養蜂の取組を緑化推進や食育などといった墨田区の地域課題解決に活用すべく、墨田区と千葉大学が連携して講演会やワークショップなどを開催する予定です。

本件に関するお問い合わせ先

（墨田区・千葉大学の事業連携について）墨田区 企画経営室 行政経営担当
TEL: 03-5608-6230 FAX: 03-5608-6407 E-mail: GYOUSEI@city.sumida.lg.jp
（はちみつの研究及び製品化について）千葉大学 企画部渉外企画課 広報室
TEL: 043-290-2018 FAX: 043-284-2550 E-mail: koho-press@chiba-u.jp